

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	23223003	研究期間	平成23年度～平成27年度
研究課題名	向社会的行動の心理・神経基盤と制度的基盤の解明	研究代表者 (所属・職)	山岸 俊男（東京大学・大学院総合文化研究科・特任教授）

【平成26年度 研究進捗評価結果】

評価		評価基準
○	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（意見等）

向社会的行動については、心理学において既に多くの研究がなされてきたが、本研究では、心理学的実験研究に脳神経生理学的研究を統合させるという野心的な視点からの取り組みが行われている。これまでの成果として、既にいくつかの重要な知見が得られており、研究は文・理の間の新しい共同研究として極めて重要な意義を持つ新しい研究展開を行っており、期待以上の成果を上げている。

得られた知見は、2種類の非協力的行動をとるものに関する発見と罰行動についての新発見であるが、これらの発見は行動実験と脳構造分析を多数の同じ研究協力者に実施することで初めて見出された成果である。

今後の研究についても、これまでの研究成果から判断して、当初の目標以上の成果が達成できるものと判断される。